

あし風通信

ICC 3 号

学びのスタンプ通算 10 号



応援します、生涯学習 - ふえる知識と仲間の輪

いしかり市民カレッジ第 1 回修了証授与式 初のゴールド修了者が誕生

10 月 7 日(水)に、石狩市役所にて「いしかり市民カレッジ」第 1 回修了証授与式が行われました。授与式は、「いしかり学びのスタンプ」から通算すると 4 回目になります。今回は、30 講座受講のブロンズ修了者が 2 人、60 講座のシルバーが 2 人、そして、初めて 90 講座を受講したゴールド修了者が 2 人誕生しました。このうち当日出席された 4 人に、学長である田岡市長から修了証が手渡されました。



続いて田岡学長から「石狩は北海道のなかでもたいへん魅力的なまちです。講座を受けたいという人やカレッジ生もたくさんおられ、オリンピックに出場した人や、大学の先生、音楽家や芸術家など、どの分野でも豊富な人材に恵まれ、石狩の良さを享受できる環境にあります。今後とも、石狩の魅力をおおいに発展させるためにも、このすばらしい事業を続けていって頂きたい。受講されたみなさん、カレッジのスタッフのみなさん、本日は本当におめでとうございます。」と祝辞が述べられました。

つづいて、修了者を代表してゴールド修了者の今中さんから「石狩の歴史であるとか人物であるとか、いろいろなことを学び、次々に受講したいという意欲がますますわいてきました。この上のスーパーゴールド(150 講座)やダイヤモンド(200 講座)を目指したい。本日は誠にありがとうございました」と意欲ある言葉がありました。

授与式の終了後、修了者を囲んで田岡学長、市の関係者、カレッジのスタッフも参加し茶話会を行い、今後の講座の展望などについて懇談しました。

次年度へ向けて～「学ぶカレッジ」から「学びあうカレッジ」へ

09 年度「いしかり市民カレッジ」も後期の半ばにさしかかり、運営委員会では次年度のプログラム作成を進めているところです。初年度の主催講座は、講座の内容や講師にこだわった編成を心がけて、概ね良い評価を頂きました。もちろん、内容などはより一層の充実を図っていきませんが、加えて次年度のテーマとして「市民が互いに教えあうしくみ作り」を掲げたいと思います。

すでに、市民が先生となって貴重な経験や知識を伝える講座「まちの先生(仮称)」に関する検討ワーキンググループを立ち上げて、具体的な討議に入っています。先生として多くの方に手を挙げていただき、さらに充実したカレッジにしていきたいと思っています。「学ぶカレッジ」から「学びあうカレッジ」へ、ぜひ皆さまのお力をお貸しください。



市民カレッジデータ

(11月25日現在)

登録者～ 154人

協力団体～ 64団体



ロゴ制作者・丸山英里子さん

いしかり市民カレッジ講座9「文献から古い石狩を見る」

～水戸光圀・快風丸の記録から石狩を読む～

北海道に開拓使が置かれたのは、1869年（明治2年）7月のことですが、実際には2万年から3万年もの人間生活の歴史があったのです。

北海道はむかし「蝦夷（えぞ）が島」と呼ばれていました。蝦夷とはアイヌ民族をさしています。そのため、市町村などの地名はアイヌ語地名にもとづくものが残っているのです。

1688年（元禄元年）水戸藩の徳川光圀（水戸光圀）が探検船快風丸を石狩に派遣したのは、アイヌの人々との交易や将来石狩が重要な場所になると認識し、調査に乗り出したと言われていました。アイヌの人々との関わりや石狩の状況など古い文献も残されています。アイヌ語研究の権威である北海学園大学名誉教授の藤村久和先生を講師に迎え、一緒にこの文献の中身を紐解きながら、光圀公の調査理由と当時の石狩の様子を探ってみませんか。



平成11年に水戸の博物館からお借りし、さけまつりで展示した模型

「文献から古い石狩を見る」講座は1月26日（火）、2月23日（火）の2回シリーズ。募集開始は1月4日（月）から。

スタッフ大募集!!

いしかり市民カレッジは市民ボランティアの運営委員（スタッフ）約20人と市教育委員会が協力して運営しています。講座の企画・運営や講師との折衝、あゝ風通信の編集・発行やカレッジの広報及び運営一般などの仕事を二つのグループに分かれて行っています。市民に喜んでもらえるようなカレッジ、市民が誇りに思えるようなカレッジを目指して努力を続けています。

運営の仕事は大変なことばかりではありません。時には酒を酌み交わしての懇親会（下の写真）や茨戸川近くのサスイシリの森で自然を満喫しながらのバーベキューなども楽しんでいます。運営に携わることによって新たな人と人とのつながりを得ることができるのも楽しいことです。

あなたもスタッフの一員となって、いっしょに活動してみませんか。お気軽に運営委員会事務局（TEL: 0133-74-2249）まで声をかけて下さい。





いんたびゅう

カローリングは面白い

カローリングは、氷上のスポーツ『カーリング』からヒントを得て、専用のコートが無くとも体育館などで行えるように考案されたインドアのスポーツです。長さ13メートル、幅3メートルのコートで、2チームのプレイヤーが11メートル先の円形のポイントに向け、色の違う6個のジェットローラを交互に投球して点数を競います。初めて挑戦するあい風通信編集委員の私たちには、氷とフローリングの床の違いはあるものの、まるでテレビで見るカーリングと同じように感じました。

この日の教室には、大人、子供合わせて12人が参加していたので、6人ずつに別れ、**ファイターズ・チーム**、**ビービー・チーム**と名前をつけ競技しました。ジェットローラは、底面に3つの車輪がついた重さ2キロの見た目カーリングのストーンと同じようなもので、ポイントゾーンの中心の赤い円に止まれば3点、その外側の黄色い円内なら2点、最も外側の青い円なら1点を獲得しますが、コースを外れたり、オーバーランしたり、届かなかったりと、なかなか思うように進んでくれません。

体験してみて、このスポーツは子供から熟年者まで、誰でも参加出来ることが分かりました。ゲームは、相手との駆け引きや高等テクニックもあり、奥深さを感じました。

今回の教室の講師は、市の体育指導委員協議会の指導員で、多くの市民に楽しんでもらいたいと普及に努めています。市民カレッジの講座でも、平成22年2月、3月に4回ほどの「カローリング体験」が行われます。



さ～、投球



どちらのチームが得点したかな

カレッジ生
の
声

市民カレッジ初学び

花川北 林 迪子 さん

講座「身近な環境を考える」の第1回「エネルギー資源転換による地球温暖化の抑制」を受講しました。グラフや図解によってわかりやすく、しかも密度の濃いお話でした。ふだんわかったつもりでいたことの奥に別の視点があったことに気づかされました。例えば海洋水位の上昇は氷が融けることによるのではなく、熱膨張によること、人類は転換効率の良いエネルギーを求め続けて核の利用までたどりついたことなど、私にとっては、ひとつの発見で、頭の中を新鮮な空気が吹き通ったような気がしました。市民カレッジには、この日入会しました。今後も硬くなった頭を刺激してもらって体験に出会えることを楽しみにしています。

編集後記

いしかり市民カレッジが、本年4月からスタートして半年を経て、第1回修了証授与式をむかえることができました。カレッジは、講座を1つ受けるたびに記録としてスタンプが1つ押されますが、平成19年からスタートした「石狩・学びのスタンプ」の講座から継続していて、今回スタンプが90個に達したゴールドの修了者が2人誕生しました。この2人のうち今中さんは、112の講座を受講したとのこと。カレッジに参加されている方も150人を超え、市民の間への広がりを感じ、関係者の一員としてたいへんうれしく思います。(T・N)

掲示板 「学びのスタンプ」会員の皆さまへ

「学びのスタンプ」制度は、平成19年6月にスタートしてから丸2年が経過し、皆さまにお届けした「あい風通信」も10号を重ねることができました。しかしながら、経費面では、この間の郵送料だけでも「学びのスタンプ」登録料では不足する状況となっています。スタンプ制度が登録料だけで運営されているをご理解頂き、できれば年度会費をお支払いの上、「いしかり市民カレッジ」に登録頂きますようお願いいたします。なお、今年度のみ、「学びのスタンプ」会員のの方はカレッジの年度会費が割引となる特典もあります。どうかご検討くださいますよう、よろしくお願いたします。

発行

いしかり市民カレッジ運営委員会

編集担当：永山隆繁、石井滋朗、中川進、今中建男

お問合せ

石狩市公民館

石狩市花川北6条1丁目42

TEL：0133-74-2249 FAX：0133-74-2249

E-mail：kouminkan@city.ishikari.hokkaido.jp